

■作戦式号■感染経路ヲ把握セヨ

正直、眼に見えないウイルスが相手だけに、100%の防衛は非常に困難なのだが、特に感染の危険の高いポイントに絞って対策を講じるだけでもかなり有効な防衛にはなる。『ウイルスはどこから来るのか、どうやって自分の体に侵入してくるのか』は知っておこう。

インフルエンザウイルスの感染経路として一番多いのは、ウイルス保持者のくしゃみやセキ、会話などの際にウイルスを含んだ唾液などが対象者の口に入るパターン、次いでそうやってくしゃみなどで散布されたウイルスに触れ、次にその指を口に運ぶことで侵入されるパターンだ。その際、口腔内に十分な湿度があれば水分が苦手なインフルエンザウイルスはそこで暫し足止めされてくれる場合もあるが、口内や喉の粘膜が乾燥していれば即その侵入を許してしまうことになる。

その上、先に述べたように、冷たい外気に晒されて体温を奪われていけば体内に侵入したウイルスを迎え撃つ免疫機能の働きも鈍くなってしまいますので、感染の危険は極めて大きなものとなる。

これをコミケットの会場内で考えると、以下のようになるだろう。



①

往復の交通機関内や入場待機時に周囲の参加者の中に感染者が存在していて、そのセキやくしゃみ、会話によって飛散するウイルスにさらされるケース。

対策

マスクをする、飲み物で喉を潤すなどしてウイルスを足止める。防寒や汗対策を的確に行って体温の低下を防ぎ、ウイルスに感染しにくいコンディションを保つ。周囲の参加者にも注意し、体調の悪そうな参加者が居たら即刻準備会スタッフに報せること。

②

会場内の雑踏で四方八方から飛来するウイルスが身体に付着、それが手を介して口に運ばれるケース。

対策

不用意に素手で口の周囲に触れないように注意し、会場内では定期的にトイレに行き行って洗剤を使って手をよく洗う。飲食を問わず何かを口に入れる前には必ず手洗いか除菌ウェットティッシュなどで手指を清潔にしてからにすること。特にガムや飴などを口に入れる際には気をつけたい。

③

サークルスペースに陳列されている同人誌の上に飛来ウイルスが到着、その同人誌のやり取り時に手に付着したものが口に運ばれるケース。

対策

コミケットの場合サークルスペースに並んだ同人誌そのものに直接的・間接的にウイルスが付着してしまう可能性は高い。また、常に比較的近距离で対面を続けるサークル参加者もリスクが高いと言える。一般参加者、サークル参加者を問わずマスクの着用や薄い手袋を用意するなどの自衛手段を講じるとよい。サークル側では見本誌に透明なビニールのブックカバーを被せ、その表面を頻りに除菌ウェットティッシュなどで拭いておくといった方法もある。

④

コスプレ広場などの空気が乾燥し、冷たい空気に晒される場所で、風に乗ってくるウイルスを呼吸によって乾燥しやすい喉や口内の粘膜に付着させてしまうケース。

対策

コスチュームによってはどうしても体温の維持が困難だったり、コスチュームの完成度を重視すればマスクなど論外、というコスプレイヤーは多いだろう。正直、今回ばかりは露出度が高いものや薄手のコスチュームは避けてはと言いたいところだが、そうもいかないのであればせめて、腰や背中などにカイロを仕込み体温を保持する、温かい飲み物のポットやのど飴類を持参して喉の乾燥を防ぐといった自衛策は必ず用意して行こう。

また、コスプレイヤーを囲むカメラマン諸兄は自分の会話やくしゃみやセキで飛散するウイルスは被写体に集中してしまうことを自覚し、相手に迷惑をかけないように、必ずマスクと手袋を着用して臨もう。

